

# 図書館報

第七号

昭和三十三年十一月十日発行  
發行所 福岡市西新町

西南学院図書館  
發行人 里見安吉

## ユダヤ人に関する文献

館長 里見安吉

本日の楽壇に大きな貢献をなしたレオニード・クロイツァーやヨーゼフ・ローゼンストックが共にユダヤ系音楽家であつたことは改めて述べることがないであろう。日本では敬意と感謝とを以て彼らを送つた。ユダヤ人だからという偏見による批判は加えられなかつたと思う。先般ソ連から来朝した戦後最初の文化使節イリヤ・エレンブルグに対してもさうであつた。然し戦時中は東北大学のカール・レーヴツト教授の如き秀れた哲学者もユダヤ系なるが故に米國に追われた。しかし此れは日本政府というよりも独乙大使館の命令でなかつたか。

ユダヤ人に対する最も烈しい迫害は一九三九年から一九四五年にかけてナチスおよびその共犯國によつて行われたもので五百万人以上のヨーロッパのユダヤ人が餓死させられ又は惨殺された恐るべき事実がある。

問題」等も引合に出された興味深い書評である。そこにはいかに深刻な問題が内蔵されているかを知ることが出来る。

ウイーン大学の精神分析学者フランクル博士の「夜と霧」は同博士がユダヤ系の故に投ぜられた獄中記に自ら冷静な学的省察を加へた報告書である。このような反ユダヤ的感情はいかにして起つていのかをつぶさに検討したパウエル・サルトルは非人道的な反ユダヤ主義の絶滅を標榜して反ユダヤ主義はユダヤ人問題ではなくしてヨーロッパ人の問題であると論じ、ユダヤ人の運命は同時に自分達の運命であること、あたかも「合衆國には、黒人問題など存在しないあるのは白人問題だ」という黒人作家リチャード・ライトの言葉を引いて問題性の現実を追求している。雑誌「現代思潮」に木村毅教授がサルトルの此の書に関する詳しい書評をのせておられる。カール・バルトやヘーゲルの所論および自らユダヤ人でありながら反ユダヤ主義を理論づけたカール・マルクスの「ユダヤ人

此の文の始めに音楽家の名を出したが、近代音楽に貢献したユダヤ系一流音楽家の名を最も親しい者から列挙すれば最近百年間における著名なウアイリニストにはユダヤ系が多かつたことがわかる。フリッツ・クライスラーとヨゼフ・シゲティは健在である。尙ほミシャ・エルマンは六十六才、ヤーシヤ・ハイフェッツは五十八才、ユーディ・メニューヒンは四十一才で前途多望である。何れも日本に演奏に来たことのある世界的名手である。これらの巨匠の源流は二人のユダヤ人ヨゼフ・ヨアヒムとレオポルド・フォン・アウエルによつて発する二つの流であり、エルマン、ハイフェッツ、メニューヒンはアウエルの流に属し、ヨアヒムの流に属するブロニスロー、フリーベルマンはパレストラインオーケストラを創設した。彼とフルトヴェングラーとの関係はナチスを背景とする悲劇である。

名作曲家や指揮者の中にもユダヤ系は少なくない。フェルザナンド・

フォン・ヒルラー、ヘルマン・レウイ、グスタフ・マーラー、レオ・フルド・ベルンシュタイン、ダリウス・ミロー、ジョージ・ガーシニウイ、アーノルド・シェーンベルグ、エルンスト・ブロツホ、先年日本に來たパウエル・ヒンデミットはフランクフルト音楽院の教授であつたが一九三九年にナチスに追われて渡米して以来、イェール大学の音楽科長として活躍した。米國はナチスに追はれた人々を迎へてその音楽文化を豊かにする事が出来たといへよう。アーノルド・シェーンベルクも一九三三年にオーストリアから渡米したしシモン・ゴルトベルクもナチスに追はれて渡米した著名な提琴家である。ナチスの暴虐以前にヨーロッパにマイエルベル(独)、ハレヴィイ(仏)フェリクス・メンデルスゾーン(独)ジャクオッフエンバック(仏)、アン・ルビンシュテイン(露)などがいた。

○九州地区大学図書館協議会  
九州十二日(木)より三日間、本館で第八回協議会を開催、九州各大学から五十数名の出席があり盛会であつた。論議は本館の全開架制度の検討と協議会々則の改正の二つが中心となつたが、本館が全開架図書館として出発して滿三年、どうやら堅実な歩みを始めて來た現在、本館の運営の現状について色々検討がなされ、御批判御教示を戴けたことを心から喜んでゐる。

○福岡県大学図書館協議会研究会  
六月十八日 総会 於九州大学  
七月三十日 研究会 於福岡学芸大学小倉分校 註文と受入  
十月五日 研究会 於佐賀龍谷短期大学 學術雑誌の整理  
○私立大学図書館協会  
五月十八日 春期関西西部会 於関西学院大学  
十月十二日 秋期関西西部会が福岡大学に於て開催された。  
十一月七、八、九日 総会並びに研究発表会が天理大学で開催される。

○西日本図書館学会  
十一月十六日 総会並びに研究発表会が九州大学で開催される。

Their History, Culture, and Religion. 2 vols. Harper & Brothers.)

### 図書館ニュース

# 図書館案内講座

## その五六

### 洋書目録はいかにして 作られるか

#### 一 洋書目録の利用の手引のために一

一、開架式図書館では目録は不必要だと考えている者がいるが、全く皮相な考え方であつて、図書に関する記録としての書誌的機能を果すだけでなく、図書の利用をより一層高めるためにも目録の果している機能は少なくないといわねばならない。例えば、或る特定の図書があるか、或る著者の書物でどのようながあるか、又或る主題に関する書物があるか等々は目録が示してくれるものであり、又、1冊の図書でも、副出や分出カードを整備する事によつて、何倍にも利用価値を増すことができるのである。殊に本館では、洋書は英文学関係以外は、開架書庫に入つており、検索者はどうしても目録に頼らねばならない。とすれば本館の洋書目録は開架式図書館の場合と同様、それが唯一の洋書の検索の手掛かりである意味でも、重要な任務を担つているのである。

二、所で本館の洋書目録は分類目録 (Classification Catalog) と著者目録 (Author Catalog) の二種に分れるが前者は或いは心理学とか又経済原論とか図書の主題によつて、系統的に一定の分類表に従つて分類された目録である。本館は洋書も和書と同様に日本十進分類法第六版に従つている。分類目録によれば書名を知らなくとも、学問の系統に従い検索をすることができるがそのためには、分類についてある程度の知識が必要であろう。目録室には日本十進法の百区分の主綱表を掲げているから、それを参照して検索されたい。

後者即ち著者目録は著者名のアルファベット順に排列された目録で、著者を知らねば引くことはできない本館では此の著者目録を基本目録とし、全てのカードの前上段 (標目という) には、著者 (又は、それに準ずるもの) を記入している。現在本館には、件名目録書名目録 (和書はあるが) が無いので、特定の図書を検索しようとするには、この著者目録に頼る外ないのであるが、著者目録の検索をするためには、その基準である標目 (大部分が著者) がどのようにして決定され、そしてどのように排列されているかを知らねばならない。

三、この著者目録の標目 (即ち著者) がいかにして決定され、どのようにして排列されているかは一見簡単のように思われるが却々決してそうではない。

例えば、標目の決定に當つては、著者の記載してない図書もあれば、それとは逆に多数の著者の著作を集めた合集もあるし、翻訳書では原著者をとるか、翻訳者をとるかの問題があり、又、団体出版物や叢書では何を標目としてとるか考えねばならない。又排列にしても、唯、アルファベット順と云つても、それが語順 (word by word) によるのか字順 (letter by letter)

によるのか、によつて大きな差異があり同じ著者の著作は何を基準として排列するかも決めなければならない。この様に簡単に見えて然も非常に多くの複雑な問題を含んでいる所の著者目録の標目の選定とその排列法を本館の洋書目録について解説しようとするのがこの小稿の目的である。

四、その際忘れてならない事は一つの図書から標目を選定し、又その標目に従つて排列するに當つて、どんな方法によれば、又どんな基準によれば、利用者にとつて最も検索に容易であり、便利である目録となりうるかという事である。

この事が最も大きな指導原理として目録作成並びに排列の基準を作るに當つて考えられねばならぬ事であろう。

之から解説しようとする『目録の標目選定法』と『目録の排列法』は大体に於て現在の図書館界の趨勢に従つたものであるが、同時に若干の私見をも交えており現在の本館の洋書目録構成の基準となつているものである。洋書目録紹介の一端となりえて、幾らかでも、洋書の検索を容易にする事に役立てば幸せである。

#### 五、洋書目録における標目選定法

洋書著者目録の標目 (目録の最上段) には、通常、著者を記入するのであるが、図書の特殊性に従つて、書名を標目としたり或いは著者でも書名でもない特殊の標目を採用することもある。

従つて之らをA、B、Cと分つて、その各々につきできるだけ簡単に説明してみよう。

A 著者標目 (著者を標目とするもの — 個人著者と団体著者に分れる)

##### I 個人著者標目

①通則 人名は姓を先にし、コンマで切つて名を続けるが、その際注意すべき事項を挙げて、

(イ) 姓名は、その母国語で、完全な形で記入する。標題紙に名の一部が省略されているものは完全名を調査する。又英語形がよく知られているときは英語形で統一する。

完全形記入例: Gide, André Paul Guillaume  
(Gide, Andréではいけない)

英語形統一例: Tolstoy, Leo. (Tolstoi, Levとしない)

(ロ) 最もよく知られ、よく使われている姓名を選ぶ。従つて變名を用いている場合、その変名で知られているときは、変名を標目として (pseud.) と附記し、然らざるときは本名をとる。

例: Gorky, Maxim (pseud.)

(ハ) 敬称、尊称等は一般に標目から除外する。但し、特に必要な場合は、姓名のあとに附記してもよい。貴族は、最近の家名をとる。

例: Wellington, Arthur Wellesley, 1st duke of.

聖徒は名のみで知られている場合、名をとり英語で Saint と附記する。同名が屢々あるから、通称を附記して区別する必要がある。

例: Benedictus, Saint, Abbot of Monte Cassino.

(ニ) 前置語を有する姓について

(I) 連体的前置語 (A', Ap, Fitz, M', Mc, Mac, O,

Saint, San等)は、前置語から記入する。

例: FitzGerald. MacArthur. O'Neil.

Saint-Beuve.

(I) その他の前置語は各国語で夫々異なる。

(A) 前置語より記入するもの

(a) 英国人名 De Morgan. Van Dyck等

(b) 仏人名の冠詞 (又は前置詞と冠詞の省略形)

Le Sage. Du Mont.

(c) 伊太利人名の冠詞 Lo Savio.

(d) 前置語と人名とが一語として綴られているもの

(B) 前置語の次の姓から記入するもの

(a) 仏人名の前置詞

Rolland, Henri de. La Fontaine, Jean de.

(b) 独乙人名

Goethe, Johann Wolfgang von.

(e) オランダ人名 Laer, Josephus van.

(d) イタリア人名の前置詞 (又は前置詞と冠詞の省略形) Conti, Niccolo de.

(C) その他不明のものは人名辞典による。

(ホ) ロシヤ語その他ローマ字を使用しない国語は、全てローマ字に翻字して目録作成のこと。

② 共著者 (Joint author) 著者が二人以上あるときは標題紙の最初の著者をとる。標題(書名)には、三人までは著者全部を記載し、四人以上の時は、最初の一人に続いて and others (et al) とする。二人目三人目の共著者は (Joint author) と附記して副出する。

③ 通信、書簡 (Correspondence, letters) 一個人の書簡を集めたものは、その筆者をとり、編者を副出する。AとBとの間の往復書簡集はAとBの共著として取扱う。二人以上の書簡集は編者を標目とする。

④ 合集 (Collections) 種々な著者の個々の著作を集めた合集で総合標題をもつものは、編者をとる。適当な編者なきときは書名をとる。

⑤ 翻訳書 (Translations) 原著者名の下に記入し訳者は副出する。

⑥ 注釈書 (Annotations) 原則として原著者を標目とし、注釈者の意見が大部分を占めている場合に限り注釈者をとる。その場合は原著者を副出する。

⑦ その他 合纂書は主たる責任を有する著者、合刻書は最初におかれたものの標目をとる。

## II、団体標目

① 総則 (General rules.) 標目としての国名は、通常英語、地名はその国語で記入する。

② 官公署 (Government.) 国名を主標目に、官公署の名称を副標目にとる。

例: U.S. Dept. of Agriculture. 但し部局名あるときはそれを副標目とし、官公署名は省略する。

③ 公共機関 (Institution) 所在地名 (市立のときは市名) を主標目にとる。

例: New York. Public Library

④ 学会、協会 (Academy, society) その名称をとる

⑤ 大学 (College or university) 通常知られている名称で記入する。例: Heiderberg Universität.

⑥ 銀行、会社 (Bank, business corporation) その

名称をとる。

⑦ その他、定期的会議はその名称に引続き回次年度を記載

B 書名標目 (書名を標目とするもの)

① 無著者名図書 (Anonymous works) 調査しても判明しない場合は書名を標目とする。この場合書名は標題の行に記載し、標目の行をあけておく

② 無著者名古典 (Anonymous classics) 伝統的な標題を原本の国語で記入する。英語形がよく知られているときは英語形を用いる。

例: Arabian nights.

③ 百科辞典、辞書 (Encyclopedias, dictionaries) 百科辞典は書名を標目とする。辞書は編者名によつて知られている場合編者をとる。

④ 人名録、年鑑 (Directories, almanacs.) 逐次刊行の人名録、年鑑等はその書名を標目とする。

⑤ 定期刊行物 (Periodicals) 雑誌及び新聞の誌名を標目とする。

⑥ 叢書 (Series) 叢書名を標目とするが、その各書が単行書の性質を有するときは、普通図書の取扱いをし必要に応じ叢書名より副出を作る。

C、特殊標目 (著者、書名のいずれでもない特殊の標目を採用するもの)

① 法令 (Laws & statutes) その国名又は州名等の下に、形式標目 Laws, statutes, etc. を副標目として記入する。但し、法令の注釈書、論文等は、著者又は編者をとる。

② 条約 (Treaties) 万国条約は、条約名を、その他の条約は標題の最初に掲げられた国名を標目とし Treaties. を副標目とする。条約集は編者をとる。

③ 聖書、猶太教典、コーラン (Bible, Talmud, Koran) 夫々 Bible, Talmud, Koran を標目とする。聖書の場合は副標目として、Old Testament. New Testament をとる。

## 六、洋書目録排列法

以上のようにして、本館の洋書目録は、その最も重要な最上段の標目が決定され、次いで標題 (書名)、出版事項、対照事項、注記事項等が記入されてゆくのであるが、こうして出来上つた目録が、どのような順序で排列されているかを知る必要がある。

例えば単にアルファベット順と云つても、語順か字順かで次のようにくいらがつてくるからである。

語順 (一語一語を一単位と 字順 (一字一字をアル  
シアルファベット順に排列) フェット順に排列)

New Amsterdam New Amsterdam

New England Newark

New wives for old New England

Newark Newman

Newman New wives for old

この両者を比較してみれば、検索には、語順の方が見易いことが分る。然し原則として本館は字順を採用しているのである。唯、個人著者の姓名の場合は例外として姓を一単位としているので、例えば次の様になる

English, James

English, William

English Association

Englishmen

